

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 29

ASEAN グローバルプログラム に参加して

船戸 勇一
Yuichi FUNATO
電子情報学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日までの間、私はASEAN グローバルプログラムに10日間参加した(表1)。ベトナムのハノイ、そしてシンガポールにも行き、PBLや現地学生との交流、南洋理工大学(NTU)やGoogle社の見学から、ビジネスパーソン方々の講演、交流会などを経験した。

表1 日程

8月28日	出国、ハノイ着
8月29日	工場見学、NTQ 見学
8月30日	大学交流、PBL 活動
8月31日	プレゼンまとめ、発表
9月1日	博物館見学、自由行動
9月2日	ハノイ発、シンガポール着 WASABI Creation 講演
9月3日	NTU 見学
9月4日	Google 社見学 交流会、講演
9月5日	自由時間
9月6日	成田着

2. 参加目的

私はこのプログラムに参加するまで日本から出ることがなく、現実味のない英語を習うばかりで海外で活動することにあまり良い印象を持っていなかった。しかし、趣味で自転車に乗り日本国内を回るうちに日本の規模に疑問を持ち、海外に興味を持ち始めた。今いる日本との生活の違い、食文化の違い、環境の違いをこのプログラムを通じて知りたいと思い、自分の目で見て外国の文化や習慣などを学ぶこ

とを目的とした。また、塾講師として生徒に英語を教えるうえで、英語への親しみをもちたいと考えたのも目的の一つである。

3. 研修内容

3.1 NTU 見学

表1に示すプログラムの中でも9月3日にシンガポールで訪問したNTUがとても印象に残っており、そこでの経験について以下に示す。

表2 NTU 訪問の内容

校内散策
MAE Outreach team, LDP 合流
Xie Ming 教授の授業見学
ラボ見学
NTU-MBA の日本人 小川様、多田様懇親会

NTUは欧米の上位の大学に肩を並べるほどの有名大学であり、シンガポールの大学として最上位に位置づけられる。まず私が驚かされたのはキャンパスの規模である。広大な土地にユニークなデザインの校舎があり、校内用のシャトルバスが走っており、そのスケールに驚いた。また、その前日に訪問したWASABI Creationの方から聞いたとおり、シンガポールにはたくさんの国からいろんな人種の方が集まっているということを経験した。たくさんの国の人たちと交流することは文化の違いを理解しあうのに大変なこともあるが様々なことを学べると、懇親会で聞いたNTUで学んでいる日本人の方々からの言葉が印象深かった。英語で行われていた授業では、ロボットのアームを動かす原理などを図示しながら解説されておりレベルの高さを感じた。

NTUに在籍されている、日本人の方にはたくさんの質問に答えていただき、視野を広げるとともに海外への興味をもち、行動力を今後身に着けようと考えさせられ、充実した時間をいただいた。



写真 1 授業見学

3.2 シンガポール講演会, 交流会

9月4日には海外で起業する日本人へのサポートや、自ら企業経営に参画されるなどしている4人のビジネスパーソンの方々とグループで交流させていただいた。海外と日本の企業における違いや、どのように語学や教養をつけたのかなど様々な質問に答えていただき、様々な価値観や考え方を学ばせていただいた。最後に「若者よ、アジアのウミガメとなれ」を著書された加藤順彦様の講演を聞いた。

ネットや電話が普及し、加藤さんが起業された時代に対し今がどれほど恵まれた環境にあるのかを知った。そして、少子高齢化社会において、考え方が保守的になるお年寄りが増えていき、広告の効力が効きづらくなるという話が面白いと感じた。今まで理系科目などを軸に学習していたが、経済、経営という分野にも興味を持つことができた。そして自分の日頃いる環境を自分で選ぶべきだという話も印象に残っている。自分のことを成長させる影響力のある人と友達でいるという内容は衝撃的であったとともに、今まで考えたことのなかった考えを持つことができた。この講演、交流会においてどの方にも



写真 2 加藤様の講演

共通していたのは若いころからの行動力と恐れの高さであった。このプログラムへの参加目的にも類似するが、自分自身何もわからない海外への恐怖心で何も行動しなかった自分を残念に思い、このプログラムにて良い経験ときっかけをいただき良かったなと思った。

4. おわりに

私はこの研修で非常に多くのことを学んだ。初めての海外で食文化の違いや交通、環境の違いに戸惑うこともあったが、日常では味わうことのない貴重な経験をすることができた。写真で見た風景と自分の目で見た風景は全く異なるものであった。今日本で生活をし、過ごしている中で「あたりまえ」だと思っていた物にもしっかりと目を配っていくべきだなと感じた。また、英語のスキルの大切さについても痛感した。自分の英語でも伝わるということが実感できたとともにリスニング能力の拙さも把握した。英語を初めて「言語」として実感できたとともに、今後の学習に生かしていきたいと考える。このプログラムにて関わり多くのことを学ばせていただいた学生、企業の方々に心よりお礼申し上げます。